

入選

## がんばるおとうさん

富山県  
砺波市立砺波北部小学校 二年

いまい しゅん

ぼくのおとうさんのおしごとは、かわらやさんです。

夏には毎日

「あついあついあつくてたおれそうだ。」

と言つてかえつてきます。じめんでもすぐあついの、やね

の上は、なんとだろうとぼくは思います。こんなにあついの

やねの上でおしごとをしていてえらいなあと思います。

ぼくがらさいのとき、おしごと中におとうさんは、やねから

おちました。そのときでんわがかかつてきて

「びょういんにはこばれたのですぐきてください。」

と言われました。ぼくは、すぐくふあんになりしんばいでな

きそうでした。おかあさんもしんばいそうな顔をしていま

した。弟は、よくわかつていないのか、

「どこいくが?」

と言つていました。

おかあさんとぼくと弟はいそいでびょういんに行きました。

とおいびょういんだったのですぐ長くかんじました。びょういんにつくとおとうさんは、ベッドの上で、

「しゅんきたがあ?。」

とにこつしながら言いました。ぼくはすこしほつとしまし

た。あたまをぶつけてけんさのためにびょういんにはこばれた

そうです。手と足もぶつけていたのではれていてかわいそうで

した。でも一日でたいいんできたのでうれしかったです。

夏になるとまたやねからおちたらどうしようとしんばいに

なります。学校の近くで、やねのしごとをしている人を見る

とおとうさんがいないかなあと見てしまいます。毎日あつい

中、ぼくと弟のためにおしごとをがんばるおとうさんは、すぐ

くかつこいいです。ぼくも、おとうさんみたいにかつこいい男に

なりたいです。